

岐阜農林事務所の普及活動状況

平成26年3月20日現在

今月の重点活動

■農家若手女性 わかばマーク女性研修会

3月10日、本巣市の富有柿センターにおいて、わかばマーク農業女性研修会を開催した。管内の女性農業経営アドバイザー2名を講師に迎え、調理実習や昼食を挟んだ情報交換を行った。参加者の自己紹介では「育児・家事・仕事が重なる」悩みが出されたが、そこは経験豊富なアドバイザー、「すべて完璧にこなそうと思わず、手を抜いて！」とアドバイスされた。

【調理実習】



活力ある新産地づくり

■アスパラガス 第5回アスパラ塾

参加者8名に関係者を含めて計12名が集まった第5回アスパラ塾を開塾した。室内講習では、農業普及課がハウス栽培の立茎から収穫出荷調整までについて説明し、現地講習では、保温中のハウスを見学して、萌芽している春芽を目の当たりにした。今回で今年度の塾は終了したが、次年度も定期的にアスパラ塾を開催し、栽培技術の向上を図る予定。

【塾生が立茎アスパラに注視】



売れる農畜産物づくり

■水稲 26年度水稲作に向けた協力体制

3月4日JAぎふアグリパークにおいて、JAぎふ（米穀課・資材課・統括支店）、全農岐阜、農業普及課が集まり、26年度の水稲実証試験打合せと地域統括次席を対象とした水稲育苗研修会を行なった。研修会では、農業普及課が26年度の水稲育苗に向けた管理のポイントを、去年の現地相談事例（低温による出芽むらや高温による細菌病発生）を引用しながら指導した。

【26年度試験計画会議】



■巢南営農 じゃがいも・さといも植付の機械化

3月11日、巢南営農で「うね整形・マルチ・植付」が一工程で行える、エイブルプランターを使ったじゃがいもの植付を行った。作業時間は3.7h/10a(2名)、作業はトラクター操作者と植え付け機に座っての作業者となるため、労働負荷が少なく好評価であった。今後は、4月から水稲作業と重なるさといもの植付へも利用し、省力化を図る予定である。

■いちじく 栽培講習会

真正いちじく部会で25年度の販売結果報告会と反省会を行った。25年度は前年並みの販売量、単価であった。農業普及課は、次年度の栽培暦を、特にスリップス対策を強調し、品質を高めた販売で消費者ニーズにあったいちじく栽培を指導した。

戦略的な流通・販売

■いちご 農商工連携新商品発表

いちごの過熟果を解消するための加工品開発が進められている。今年は、県内の酒蔵と連携し、日本酒で作ったイチゴリキュールを開発した。今回は、3月4～7日に幕張メッセで行われたフードックス・ジャパンの岐阜県ブースに出展



【いちごリキュール出展】

した。日本酒といちごの新しい味で、地域の特産を活用したこともあり、卸業者や飲食店の方々に大変好評であった。

多様な担い手の育成・確保

■ J A ぎふ水田農業担い手連絡協議会 **研究交流会**

2月20日 J A ぎふアグリパークにおいて、第3回 J A ぎふ水田農業担い手連絡協議会研究交流会が開催された。国・県・JA から新たな農政の見直しポイントが説明され、農業普及課からも25年産水稻の作柄状況と今年取組んだ低コスト栽培技術の調査結果を報告した。

■ 青年農業士 **異業種県外視察研修と総会**

2月20日岐阜地域青年農業士連絡協議会は、異業種県外視察として三重県鳥羽市の丸善水産を視察研修した。社長からの立地の不利条件を逆手に取った「ピンチがチャンス」の事例を紹介を受けて、会員は自分たちの恵まれている点や経営の視点などについて感想を述べ合っていた。

■ 柿 **柿諮問会議が答申**

瑞穂市柿振興会は、産地維持の提案のため設置した諮問会議から3月10日に答申を受けた。諮問会議では1年かけて8回会議を開催し、S W O T 分析により産地の現状を分析して活性化の戦略を検討した。答申では、富有柿発祥の地やマスコットキャラクター「かきりん」を活かした P R 展開と、栽培面積の減少を防ぐための作業受託組織の設立検討などの項目を提案した。農業普及課は、今後関係機関と連携して、答申の具体的実現を支援していく。



【柿諮問会議の答申】

※写真提供 J A ぎふ

魅力ある農村づくり

■ 集落営農システム確立事業 **鳥獣害防護柵設置**

2月24日鳥獣害対策指導員向けの研修会が山県市柿野の集落営農システム確立事業のモデル圃場で開催された。これに先立ち、1月23日には防草シート設置、1月30日にも防護柵設置研修会（雨で室内研修のみに終る）で設置が進められてきたが、3月12日にようやく完成した。今後、防護柵内で何を作付けるか、回収されたアンケートに基づいて集落営農をどのように進めていくかなどようやくスタートライン立った。

【猪鹿鳥無猿柵最終チェック】



県民みんなで育む農業・農村

■ 瑞穂市学校給用野菜生産グループ **出荷者反省会**

3月17日 J A ぎふ巣南支店において瑞穂市給食センター出荷者反省会が開催された。瑞穂市の学校給食に野菜提供を始めて3年目となり、出荷量も順調に増えている。本年度は防除回数を減らしたが、微細昆虫等の異物混入のチェック体制が問題となった。26年度に向け、納品時の品質チェック強化、病虫害発生情報の共有化や防除暦に基づいた予防防除の実施等を取り組むこととした。